

新聞掲載記事より

【質問】胃がんの手術を受けました。手術をした先生から「長崎県がん地域連携クリティカルパス」を利用するよう言われました。どういうものでしょうか。

(65歳男性)

がん連携パス

【回答】長崎県がん地域連携クリティカルパス(以下「連携パス」)は、がん患者さんに安心、安全で質の高い医療を提供するため、初期治療を行った計画策定病院(がん診療拠点病院、県がん診療連携推進病院など)と連携医療機関(一般病院、診療所など)が患者さんの診療計画、検査結果、治療経過を共有するためのツールです。

医療施設間で情報共有

連携パスを利用することで、患者さん自身が診療計画や病気を理解でき、かかりつけ医の下で手厚い診療を受けられるようになります。さらに診察の待ち時間や通院時間の短縮などのメリットもあります。2012年から県内



で統一したものを使っています。患者さんには「私のカルテ」を保管していただきま

が入っており、医療機関を受診する際に必ず携行するようにします。

医師や看護師、薬剤師ら診療に関わる人が記入するのは当然ですが、患者さんも自身の状況や心配なことを記入します。診療時に医師は「私のカルテ」を見ることで、患者さん

患者の治療計画など記載

す。連携パスは現在、胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がんの五大がんの特定の状態にあるがんに限られています。計画策定病院は初期治療後に「連携パス」に沿って治療できるかどうかを検討し、その結果を患者さんに説明し同意を頂きます。同意するか否かは患者さんの自由ですし、一度同意しても途中で連携パスの利用をやめることは可能です。決して初期治療を行った計画策定病院と縁が切れるわけではありません。二人の主治医に診てもらえる、利点の多い制度です。「連携パス」を勧められた場合はぜひ利用していただきました。と思います。(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。